月　日 名前　　／100点

【小3】国語 文章問題　物語文 4

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

ねこのミケが、家に帰ってこなくなって、三日がたった。
ミケは、わたしが生まれる前から家にいる、年を取ったねこだ。いつもは夕方になると、えんがわでまるくなってねているのに、そのばしょは、ずっと空いたままだった。
わたしは、弟といっしょに、町じゅうをさがして歩いた。公園のベンチの下、近所の家のにわ、田んぼのあぜ道。「ミケ、ミケ。」と名前をよんでも、へんじはなかった。
四日目の夜、わたしはねむれなかった。ミケに、もっとやさしくしておけばよかった。しっぽを引っぱったこともある。ごはんをあげるのを、わすれた日もある。思い出すのは、そんなことばかりだった。
そのとき、えんがわのほうから、かすかに「にゃあ」と声がした。
わたしは、ふとんからとび出した。まどを開けると、そこにミケがいた。体はどろだらけで、少しやせていた。でも、いつものように、えんがわのいつものばしょで、まるくなろうとしていた。
「ミケ。」
わたしがよぶと、ミケは目を細めて、小さく鳴いた。わたしは、ミケのどろだらけの体を、そっとなでた。
次の朝、わたしは、ミケのごはんのお皿を、いつもよりていねいにあらった。そして、ミケのすきなかつおぶしを、少しだけ多めにのせた。

（この問題のための書き下ろし）

問一　ミケは、いつもは夕方になると、どこでねていましたか。本文から五字までで書きぬきましょう。

問二　四日目の夜、ねむれなかったとき、わたしはどんな気持ちでしたか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　ミケに、もっとやさしくしておけばよかったと思う気持ち。
イ　弟といっしょにさがすのに、つかれてしまった気持ち。
ウ　ミケは、きっとすぐに帰ってくると安心する気持ち。

問三　帰ってきたミケの体は、どんなようすでしたか。本文から十五字までで書きぬきましょう。

問四　次の朝、わたしがミケのお皿を、いつもよりていねいにあらったのはなぜですか。三十五字までで書きましょう。